

追悼：小倉多加志先生

澤 井 勇

(協会副会長・実践女子大学教授)

当協会の顧問で第二代会長をつとめられた小倉多加志（本名、阜）先生は昨年、平成3年10月13日午後4時51分、吉祥寺の森本病院でお亡くなりになりました。享年80歳。通夜、葬儀については先生のかたいご遺志でいっさい公表されず、ごく内輪だけですまされました。先生が長年つとめられた実践女子大学の関係者たちですら、49日忌の法要と納骨の際にはじめて参列を許されるというようなわけで、他人への迷惑をいつも気にされ、またそうとうの照れやでいらした、いかにも先生らしいご遺志でした。戒名は紹宏院泰英日泉居士。

先生は、明治44年3月1日、東京本郷元町に誕生され、官僚であったお父上の勤務地台北の高等学校を出られてのち、昭和9年に京都帝国大学文学部英文学科をご卒業されました。戦前は台北中学で教鞭をとられ、戦後は日本大学予科教授、国学院大学文学部教授を経て、昭和29年に実践女子大学教授となられ、昭和61年に停年退職されました。実践女子大学では英文学科主任、評議員、文学部長、理事を歴任され、退職された翌年には教育功労者として勲三等瑞宝章を叙勲されました。

先生のご専門は、いうまでもなくオスカー・ワイルドを中心としたイギリス世紀末文学で、昭和48年4月には学位請求論文「仮面の真理——ポーズの作家オスカー・ワイルド」によって文学博士号を取得されました。著書には『イギリス世紀末文学概観』をはじめ『イギリス文学史要説』、『英米文学作家作品年表』（共著）、『高等英文法』などのほか、ジャクソンの抄訳『イギリス世紀末文学』や『リケット入門英文学史』評注がありますが、翻訳ではその数は龐大で、ダウソンの『悲恋』やクラッカンソープの『破船』をはじめとする世紀末文学、G・グリーン『叔母との旅』やジョイス・ケアリの『あたらしい女たち・はじめての愛情を』をはじめとする現代文学、『猿の惑星』や『ファー・コール』をはじめとするSF小説など多方面にわたり、さらにゴシック・ノヴェルにも関心をもたれていて、『デラニーの悪霊』や『グリーンマン』などの翻訳があります。

先生は、学生たちのあいだでは、授業ではこわくて厳しいけれども普段は親身になってとても優しく接してくださるというもっばらの評判でした。同僚や仲間と一緒におられるときはお好きなタバコとコーヒーをはなさず、大へん話ずきで、ユーモアに満ち、恬淡、豪放磊落、それでいて繊細な感受性を秘めておられる方でした。また、あの独特の眼鏡と独特の注文靴、それに万年筆やライター、時計等のまさしく専門家はだしの収集。身につけるもの、持ち物、そしてあの美しい文章からお人柄にいたるまで、いかにも世紀末文学に深い関心をよせられていた先生にふさわしく、また、かつて本間久雄先生が評されたとうり、真にダンディズムに徹しておられました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。